

福岡市中央区赤坂1-16-5 電話(092)715-4311(代) www.yomiuri.co.jp

お経の祭典 初の開催

ミャンマー人僧侶100時間読経

世界平和
パゴダ

東日本大震災による犠牲者や戦没者らを悼み、世界平和を願って、ミャンマー人僧侶が約100時間、読経を続けるお経の祭典「パターイン祭」供養会が15日、北九州市・門司港のミャンマー(旧ビルマ)仏教寺院「世界平和パゴダ」で始まった。世界平和パゴダが1958年に建立されて以来、初の開催で、国内では珍しいという。

仏法の教義に関する聖典の最後の教えで、最も尊いとされる。この祭りは、ブツダが悟りを開いたと伝えられる5月を挟んで、同国では4〜6月に各地で開催されており、一時閉館されていたパゴダが昨年8月に再開したのを機に、ミャンマー仏教会が開催を決めた。

この日は、最高位の僧侶とされる三蔵位大長老や、このパゴダで生活するウイ

マラ住職ら計14人が正午過ぎに一斉に読経を始めた。総勢17人で交代しながら、パターインが書かれた教典5冊を昼夜を問わず読み続ける。終えるまでに100時間程度かかるという。

ウ・エンダバラ第11番目三蔵位大長老は「世界平和パゴダが未永く発展し、日本の皆様が安寧になりますように」と話して、お経を読みます」と話していた。



パゴダで読経する僧侶